

三月 朔日

文化四卯年被仰出

(十六) 普請用材につき願書

乍恐奉願上事

當寺庫裏六間梁ニ桁拾間ニ御座候處先住日秀代元祿二年三月奉願上建立仕候以後代々拙寺迄手入普請仕候得共數十年罷成候事故至而及大破繕普請等ニ而難相届候ニ付在來之通新規建替仕度奉存候依之恐多申上様奉存候得共右入用木品當寺院境內杉松之内別帳之通頂戴仕度奉願上候且亦見透之場所ハ植立可仕候以御憐愍願之通被仰付被下置候ハ、多年之願望成就仕法要寺務可仕難有仕合奉存候此旨御序之節宜被仰上被下度奉願候以上

享保三年六月二十八日

法 華 寺 印

本堂 仁右工門 殿
毛馬内 伴 治 殿

(十七) 口上書伺

貞了院様百五十回御忌當六月十三日御相當ニ付其節兼而御渡被差置候御紋幕竝高張御挑燈共ニ相用可申候處誠ニ大破罷成候之間不苦御儀御座候ハ、拙寺物入ヲ以新規取拵御供養之節相用申度奉存候此段奉伺候以上

高張御挑燈ツカハリのチヤウチヤウ 高張提灯

竿の上にて下げた提灯のこと。

閏三月

法 華 寺

切田 多仲殿
下河原 志津馬殿

(十八) 當山沿革一班書上

御尋に付捧書

京都寺町二條下ル妙滿寺末

上行山法華寺草創天正年中開基日慶と申候

什物古筆

宗祖日蓮御眞筆小曼陀羅

文之切レ十字餘之小幅

一幅

二代 日 進

三代 日 照

四代 日 養

四代目に寺再興任 京都 勅願所妙滿寺を以て爲本寺其以前は小庵同然にて本寺無御座候

五代 日 生

法華寺元來の寺地光臺寺の西隣に御座候所

源秀院殿御廟所御用地に付當所へ替地被仰付引地仕候

日 生 義

重信様御部屋住より御懇意被懸御日被下連歌御相手度々出席仕拙寺へも被爲成候由依之引地後本堂建立之節栗柱三十本被下置竝に諸材木從御上御心添被成下候由申傳候

六代 日 普